

財団法人 8020 推進財団 平成 19 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録	
1. 事業名	自立高齢者の介護予防のための口腔機能向上支援事業Ⅱ ～生活に密着した口腔機能向上プログラムで快適な楽しい毎日を～
2. 申請者名	高橋 達直
3. 実施組織	財団法人ライオン歯科衛生研究所、台東区老人福祉センター
4. 事業の概要	<p>昨年度、自立高齢者の口腔機能アセスメントに基づいた口腔機能向上プログラムの開発を行い、その有効性を評価した。その結果、口腔機能の改善が認められ、介護が必要となる前からの口腔機能向上支援の重要性が明らかとなった。しかし、3ヵ月後の事業への参加率は42%であり、プログラムを毎日実施した高齢者は31%であった。そこで今回は、実施団体との連携を強化し、家庭での実施率向上にポイントを置いた口腔機能向上プログラムの改良をして、その有効性を検討した。</p> <p>台東区老人福祉センターに集う60歳以上の自立高齢者25名(3ヵ月後23名)を対象に、3ヶ月間の口腔機能向上プログラムを実施した。その結果3ヵ月後のプログラム参加率は95.0%であり、家庭で毎日プログラムを実施した者は52.4%であった。また口腔機能の変化では、咀嚼力判定ガム、反復唾液嚥下テスト(RSST)、オーラルディアドコキネシス「ka音」、唾液湿潤度、吐出液濁度、口腔内総菌数、<i>Porphyromonas gingivalis</i>の総菌数に対する割合において有意な改善が認められ、本プログラムの有効性が確認された。</p>
5. 事業の内容	<p>【対象者】 東京都台東区老人福祉センターに集う60歳以上の自立高齢者25名(3ヵ月後23名)。</p> <p>【方法】 初回調査として、摂食・嚥下のメカニズム、口腔機能維持・向上の重要性等の講演後、口腔機能を口腔の外(周り)、口腔の入り口(咀嚼機能)、口腔の奥(嚥下機能)、口腔乾燥度、口腔清掃度の5つに分類してアセスメントを行なった。その後、アセスメント結果に基づく家庭用のプログラムを資料にて個別に提案した。さらに期間中、2週間に1回、センターにて集団的アプローチを行なった。3ヵ月後に同様の調査を行い評価した。</p> <p>【結果】 1) 口腔機能向上プログラム3ヶ月間、毎日実施者は52.4%、週数回実施者は33.3%、最初だけ実施者は4.8%、未実施者は9.5%であった。 2) 口腔機能向上プログラムを実施して変化があったことは、「唾液が出やすくなった」90.5%、「歯や口の健康に自信が持てるようになった」66.7%、「飲み込みやすくなった」47.6%、「生活が楽しくなった」38.1%などであった。 3) 初回と3ヵ月後の口腔機能検査で改善が認められた検査は、咀嚼力判定ガム(p<0.01)、反復唾液嚥下テスト(p<0.05)、オーラルディアドコキネシス「ka音」(p<0.01)、唾液湿潤度(p<0.05)、吐出液濁度(p<0.05)、口腔内総菌数(p<0.01)、および<i>Porphyromonas gingivalis</i>の総菌数に対する割合(p<0.01)であった。 以上の結果から本事業の有効性が確認された。</p>
6. 実施後の評価(今後の課題)	<p>1) 口腔機能向上プログラムの更なる強化・改良 (1) 対象者のステージに対応したプログラムの開発と有効性の検討 (高齢者のステージ: 活動的な自立高齢者、特定高齢者、要支援、要介護高齢者など)。 (2) 対象者の状況に合わせたアセスメント項目とスクリーニング基準値の再検討による口腔機能向上の変化に対する検出力の強化 (3) 口腔機能向上に加え、口腔に自信がもてるような審美的な満足度の向上を目指した高齢者のニーズに合わせた新プログラムコンテンツの開発</p> <p>2) 口腔機能向上支援事業の啓発と推進 (1) 実施団体に対する本事業の積極的なPR (2) 経済性を考慮した事業の効率化(効率的実施方法の検討など)</p>